

## 多摩川河口干潟の観察

観察者：大野幸正ほか2名

日時：2009年4月29日（水）

場所：多摩川河口干潟左岸側（羽田空港側）

観察したのは下図の赤い点線で示すルートで、徒歩にて多摩川河口干潟の東京側を海方向に進みました。所々シャベルや熊手で干潟の砂泥を穿りながら観察して、状況をデジタルカメラに記録しました。目指す地点はこれまで幾度も船で通った所（下図の赤丸地点）でしたが、水深があり、泥深い箇所が行く手を遮ったためにたどり着けませんでした。

当日は、13時過ぎが最干潮時刻で、南風が弱く良く晴れ渡った祭日でした。歩いたルートは、大雑把に見て3地域に区分されると感じました。（上流から順にA、B、C区域）

A区域は、シジミ採りをする人が多く、ゴカイ掘りの人もいました。斜めに掘られたやや大きなカニ穴が多く、掘ってみるとオサガニの仲間が出てきました。

B区域はシジミもいましたが、アナジャコ採りをする人が結構いました。この辺りからマメコブシガニが出現したので、海の干潟っぽい感じがしましたが、シオフキガイやアサリはごく少数でした。

C区域はシジミがいなくなり、貝類では多い順にシオフキガイ、アサリ、マテガイでしたが、全般に少量で、食べたくなるようなサイズが見当たりませんでした。

今回の多摩川河口干潟に生息する生物の印象は、「極めて少ない」です。目指した海に近い地点には水深と泥の深さの関係でたどり着けませんでした。C区域の辺りでは、アサリは極めて少なく、熊手に刺さるほどいたシオフキガイも減少し、スコープで探ると1回で数本いたマテガイもほとんど目にする事がありませんでした。



図 観察のルート等





### 【A 地域】

A 区域は、シジミ採りをする人が多くいました。泥表面を浅く掻いてシジミ取りをしていました。「シジミは深いところにはいない。」とのことでした。



聞けば、シジミは砂地に多いとのこと



水際は泥っぼいがシジミもいる



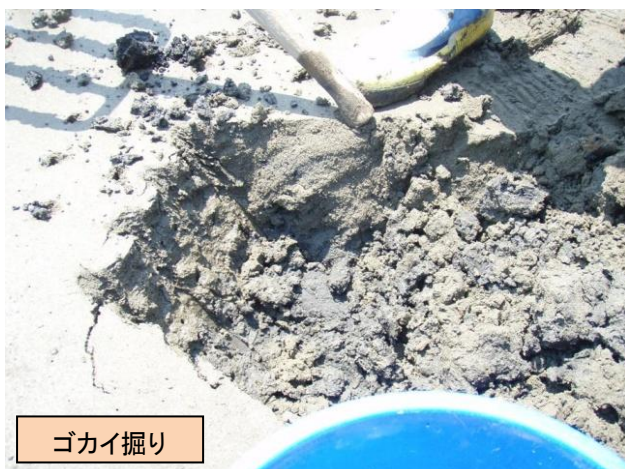
シジミ採り



常連？の獲物(1時間くらい)



ゴカイ掘りの人もいました。斜めに掘られたやや大きなカニ穴が多く、掘ってみるとオサガニの仲間が出てきました。



ゴカイ掘り



オサガニの仲間



### 【B 地域】

B 区域にもシジミもいましたが、アナジャコ採りをする人がいました。この辺りからマメコブシガニが出現したので、海の干潟っぽい感じがしましたが、シオフキガイやアサリはごく少数でした。水際を手網で探ると、まハゼの稚魚が結構入りました。



アナジャコ







### 【C 地区】

C 区域はシジミがいなくなり、貝類では多い順にシオフキガイ、アサリ、マテガイでしたが、全般に少量で、食べたくなるようなサイズが見当たりませんでした。



熊手では見つからないようなサイズも、手網で泥の中を探るとアサリの稚貝も見つかります。これらが育たない原因としては人や鳥類等の過剰な採取の他に、有害物質、栄養塩類、干潟の地形などが考えられます。平成 7 年頃までは、この辺りに潮干狩りに来て、おいしいアサリをお土産に持ち帰りました。この広大な干潟から生き物いなくなったことが不思議でたまりません。金沢八景や船橋ではアマモの移植が行われています。かつての多摩川河口干潟でもコアマモやアマモが繁殖していたのであれば、このような努力を通じて、生産力の豊かな干潟に再生する努力が必要なのだと強く感じた一日でした。



アサリの稚貝とアラムシロガイ(巻貝)



マテガイ(5cm 程度)

参考資料（気象庁、潮位グラフ：東京 2009 年）

